

NPO法人

# 全日本語りネットワーク

〒376-0045 群馬県桐生市末広町 11-1

JR 桐生駅構内 桐生市民活動推進センター

(Fax) 0277-47-4066 (振替) 00130-2-114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) <http://japankatarinet.jp/>

2014. 1. 31 発行

## ニュース

### 「第12回全日本語りの祭りin 南三陸」開催に向けて

NPO法人全日本語りネットワーク理事長 井上幸弘

2014年の年頭にあたり皆さまのご多幸をご祈念申し上げます。

さて、今年は第12回の語りの祭りを平成26年9月27日から29日まで宮城県南三陸町で開催します。現在理事会で祭りの準備を進めております。

私たち理事8名は昨年10月南三陸町にでかけました。仮設住宅の自治会長畠山さんからは、住民の方が撮影した津波のDVDを見せていただきながらお話をお聞きしました。撮影している住民の驚きの声が入っているDVDでした。これは祭りの中で皆さんに見ていただきたいと思います。

しづがわ民話の会の仲松さんからは、震災後は夢中ですがすごしていたが、時がたつにつれて何もする気がなくなった。それから脱することができたのは、子どもたちに昔話を語ることだったと、お聞きしました。私たちは時がたつのを忘れてお二人の話に耳を傾けました。

南三陸町の観光協会の方からもお話を伺いました。震災を語り継いでいこうとしてたちあげた高校生による「まずもって」の活動や、震災で壊滅的な痛手を被った、行山流水戸辺鹿子躍（ぎょうざんりゅうみとべししおどり）の復活に関する情報も得ました。復興・復活を象徴するような活動を、祭り参加の皆さんに見ていただきたいのです。

復興商店街「さんさん商店街」にも立ち寄りました。この商店街でたくさんのお金を使っていたきたいと思います。また、ホテル観洋の従業員が震災を語る「語り部バス」にも乗車してください。なにげない風景の中に巨大な津波の爪あとが見えてきます。

3・11東日本大震災から3年6ヵ月が経過して、町の中にはがれきはなくなり、震災を思い出させる遺構も少なくなり、以前から原っぱであったかのような錯覚に陥るかもしれません。しかしながら、津波によって死亡したり不明になったりした方が900人を超すというのが、紛れもない事実であります。

震災のことがしだいに風化していくことを危惧しております。震災の記憶を私たちの体内に残し、ひたむきに復興に向かって動いている南三陸の人たちのたくましさに学び、南三陸で行う語りの祭りを共通体験の場としていきたいと思っております。

今回の祭りは、2泊3日全日程参加とします。近隣の方にもお泊まりいただき、地元の人や語りの仲間と交流しましょう。「第12回全日本語りの祭りin 南三陸」—東日本大震災復興を祈って—〈語りは絆〉をテーマにして行います。全国の皆さんと南三陸でお目にかかれるのを楽しみにしております。

